

各関係機関長 殿  
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

平成30年度農作物病害虫発生予察情報について

平成30年度農作物病害虫発生予報第5号を発表したので送付します。

---

平成30年度農作物病害虫発生予報第5号

平成30年7月13日  
徳 島 県

I. 普通作物

早期水稻

穂いもち

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第2・3半旬の巡回調査では、葉いもちの発生圃場率が47.4%と、平年(27.5%)に比べてやや高いが、発病度は2.4と、平年(1.9)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多く、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉いもちの発生が多い圃場では、液剤による薬剤防除を使用基準を確認の上、出穂直前までに行う。
- (2) 窒素質肥料を過用しないこと。特に、出穂前後の窒素過多は穂いもちが発生しやすくなるので、穂肥、実肥の施用時期・量に注意する。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第2・3半旬の巡回調査では、発生圃場率が15.8%と、平年(26.9%)並の発生であるが、発病度は0.5と、平年(1.7)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多く、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前に防除を追加し、上位葉へ薬剤が十分かかるように散布する。

## セジロウンカ

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 7月第2・3半旬の巡回調査では, 発生圃場率が10.5%, 株当たり虫数が0.03頭と, 平年(53.3%, 0.20頭)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年より多く, 期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, 発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し, 特に, 苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では, 防除に努める。

## トビイロウンカ

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 予察灯の飛来調査では, 飛来を確認していない。
- (2) 7月第2・3半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期も発生はない)。
- (3) 高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年より多く, 期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, 発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し, 特に, 苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では, 防除に努める。

## コブノメイガ

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 7月第2・3半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が10.8%, 被害株率が1.4%)。
- (2) 高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年より多く, 期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, 発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除が遅れると幼虫による葉の食害が進むので, 今後の発生に十分注意し, 苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では, 防除に努める。
- (2) 出穂期頃に被害が目立ち, 被害葉が白くなった頃には幼虫が老熟しており, 薬剤の効果が劣る。

## 斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ, ホソハリカメムシ, クモヘリカメムシ等)

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「中～多」

### 2) 予報の根拠

- (1) 7月第2・3半旬の水田周辺の雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では, 19地点のうち12地点で生息を確認した。捕獲地点率が63.2%, 1地点当たりの捕獲虫数が8.6頭と, 平年(61.3%, 7.2頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年より多く, 期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, 発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を, 水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する(出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことにならないので行わない)。

- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

## 普通期水稲

### いもち病

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 7月第2・3半旬の巡回調査では、葉いもちの発生圃場率が13.8%と、平年(25.2%)に比べてやや低く、発病度も0.3と、平年(2.1)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多く、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生抑制的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 苗箱処理剤にいもち病対象薬剤を用いていない圃場において、いもち病の発生を認めた場合は、速やかに薬剤防除を行う。また、その後も病勢の進展が見られるようであれば追加防除を行う。
- (2) 葉いもちの発生が多い圃場では、薬剤の登録内容を確認の上、粒剤は出穂10日前までに、液剤は出穂直前までに防除を行う。また、出穂後曇雨天が続いた場合には穂揃期にも防除を行うとともに、穂肥の施用量は控えめとする。

### 紋枯病

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 7月第2・3半旬の巡回調査では、発生圃場率が3.4%、発病株率が0.1%と、平年(9.6%、1.5%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多く、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前に防除を追加し、上位葉へ薬剤が十分かかるように散布する。

### セジロウンカ

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 7月第2・3半旬の巡回調査では、発生圃場率が17.2%、株当たり虫数が0.02頭と、平年(52.2%、0.2頭)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多く、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、防除に努める。

### トビイロウンカ

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 予察灯の飛来調査では、飛来を確認していない。
- (2) 7月第2・3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も発生はない)。
- (2) 高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多く、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、防除に努める。

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第2・3半旬の水田周辺の雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、29地点のうち25地点で生息を確認した。捕獲地点率が86.2%と、平年(70.8%)並の発生であるが、1地点当たりの捕獲虫数は14.6頭と、平年(7.7頭)に比べてやや多い。
- (2) 高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多く、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10~15日前までに除去・処分する(出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことにならないで行わない)。
- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

サツマイモ

食葉性害虫(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ナカジロシタバ等)

1) 予報内容

発生量 平年並~やや多く(前年並)、発生程度は「少~中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第3半旬の巡回調査では、食葉性害虫による被害発生圃場率が100%、被害度が10.3と、平年(89.3%、9.4)並の発生である。
- (2) 6~7月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査4圃場の平均)
  - ・ハスモンヨトウでは、6月は平年よりやや少なく推移したが、7月第1半旬には平年並となっている。
  - ・シロイチモジヨトウでは、6月第6半旬より増加し、7月第1半旬で平年の約2.3倍となっている。

月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2018年	2017年	2016年	2015年	平年	2018年	2017年	2016年	2015年	平年
6.3	11	32	65	90	33	32	69	39	18	26
6.4	14	9	227	36	47	32	88	39	31	40
6.5	24	17	153	39	48	25	61	26	47	29
6.6	27	14	69	46	41	80	27	11	53	25
7.1	37	23	47	23	33	74	31	16	11	32
7.2		27	21	22	35		210	70	20	76
7.3		21	26	15	38		200	33	151	127

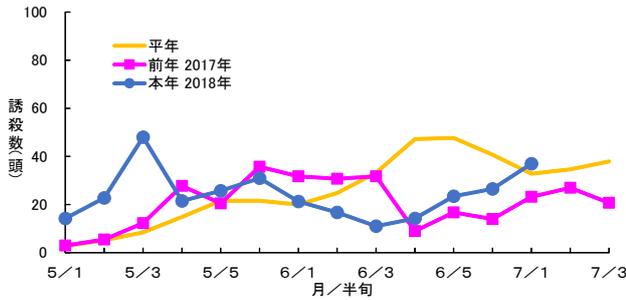


図1 ハスモントウ フェロモントラップ誘殺数推移(甘藷圃場)  
\*徳島市,鳴門市,松茂町の4地点平均

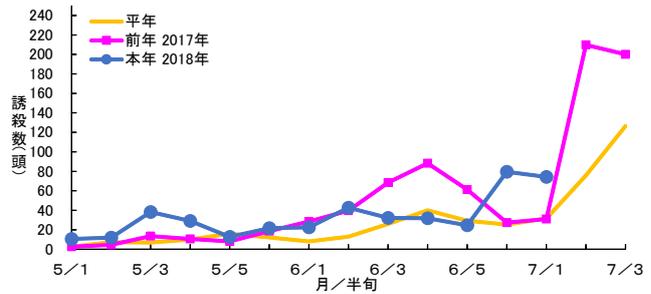


図2 シロイチモジトウ フェロモントラップ誘殺数推移(甘藷圃場)  
\*徳島市,鳴門市,松茂町の4地点平均

(3)高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多く、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、若齢幼虫時に徹底防除を図る。

## ハダニ類

### 1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

### 2)予報の根拠

(1)7月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が31.3%、寄生葉率が2.9%と、平年(43.0%、4.4%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多く、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。

(2)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

## II. 果樹

### カンキツ

#### ミカンハダニ

### 1)予報内容

発生量 平年並～やや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

### 2)予報の根拠

(1)7月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が26.7%、寄生葉率が2.3%と、平年(66.1%、6.9%)に比べてやや低い。

(2)高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多く、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。

(2)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

## ナシ

### 黒星病

### 1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

## 2) 予報の根拠

- (1) 7月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が9.3%, 発病葉率が0.3%, 発病果率が0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多く、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生抑制的な気象条件である。

### Ⅲ. 野菜

#### 夏秋ナス

##### うどんこ病

###### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

###### 2) 予報の根拠

- (1) 7月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%と、平年(16.7%)並の発生であるが、発病葉率は0.3%と、平年(1.5%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多く、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

###### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料の過用を避ける。
- (2) 落葉した罹病葉は適切に処分する。
- (3) 病斑が進展し葉の表面が菌叢で覆われると、薬液が弾かれ防除効果が劣るので、展着剤を加用し散布する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

##### アザミウマ類

###### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

###### 2) 予報の根拠

- (1) 7月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が88.9%、寄生葉率が5.7%と、平年(66.3%, 3.9%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多く、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

###### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。葉表より葉裏への寄生が多いので、防除の際には、葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

##### オオタバコガ(7月3日付けで注意報発令中)

###### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

###### 2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、産下卵及び幼虫による果実の被害は認めていない(平年同時期は産下卵確認圃場率が37.0%, 100葉当たり平均卵数が0.5卵, 被害果率が0.1%)。
- (2) フェロモントラップへの誘殺頭数(7地点平均)は、6月第6半旬から増加し、7月第1半旬には平年の約1.4倍であった。

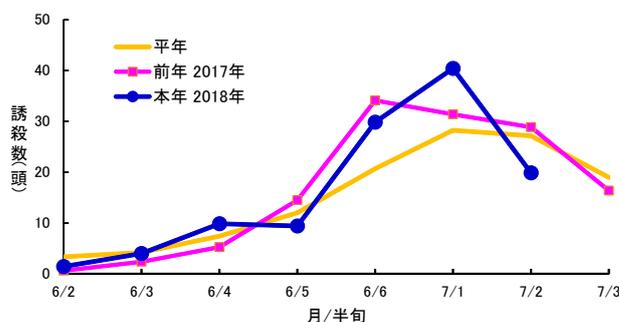


図3 オオタバコガフェロモントラップ誘殺数推移  
※阿波市、三好市、東みよし町、石井町の7地点平均

(3) 高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多く、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 被害部位(果実、花蕾)や剪定後の茎葉には卵や幼虫が付着している可能性があるため、圃場外に持ち出して適切に処分する。
- (2) 果実や茎、花蕾に食入した幼虫や発育が進んだ幼虫に対しては薬効が著しく低下するので、若齢幼虫主体の時期に薬剤防除を行う。
- (3) 本虫は作物の花蕾や生長点付近の新葉に1個ずつ産卵する。野外での卵期間は3日程度であり、今後、8月上旬にも幼虫の発生ピークが来ると見込まれる。その後多い状態が続くため、防除適期が判断しづらくなる場合もあるので、寄生部位を注意深く観察してから防除する。

## ハダニ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 7月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%と、平年(35.7%)並の発生であるが、寄生葉率は1.9%と、平年(3.5%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が7月12日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多く、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は多くが葉裏に寄生するので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

## IV. その他

- 1) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

### 予報内容の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所  
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。